

第5回 電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会 議事要旨

平成25年7月11日(木)

14:00~17:00

伊勢市観光文化会館4階大会議室

1. 開会

(三重県環境生活部次長)

・定刻を若干過ぎましたので、ただ今より第5回電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会を開催いたします。

(三重県 環境生活部次長 挨拶)

・本日はお暑い中お集まり頂きありがとうございます。私は三重県環境生活部次長の岡本と申します。よろしくお願いいたします。

・この協議会は昨年8月に設立し、4回の協議を重ね、今年3月に低炭素社会の構築に向けた行動計画である「おかげさま Action!」を作成して頂いた。本年度はこの行動計画に基づき、具体的な取り組みを行っていくこととしている。本日の協議会はこの具体的な取り組みや、あるいは今後のスケジュールなどを皆さまにご検討して頂く。活発な議論をお願いしたい。

(司会)

・本日司会を務めさせていただきます、森口と申します。よろしくお願いいたします。

・続きまして伊勢市副市長の松下様から一言お願いいたします。

(伊勢市副市長)

・皆様こんにちは。地元伊勢市副市長の松下でございます。よろしくお願いいたします。

・今日は大変厳しい暑さが続く中、また、お忙しい中、声をかけさせていただきましたところ、お集まり頂きありがとうございます。協議会の皆様、とりわけワーキンググループの皆様には本当に短期間の間に行動計画アクションプランをお作り頂き、ありがとうございました。

いよいよこれからアクションプランの5つの項目に基づきまして具体的にすすめていくことになりかと思っておりますので、楽しみにしているところです。

・伊勢市におきましては、25年度予算で電気自動車2台の予算を上げさせて頂き、いよいよ来月8月には電気自動車が納品されることになっている。今回は、その目的に従って、軽貨物自動車ということで購入させて頂く。これからも電気自動車の購入を考えていきたいと思っている。

・伊勢市では、土曜日(7月13日)には第61回の全国花火大会が開催される。7月27日から9月1日にかけて、主に金一日曜日、のべ22日間にわたり、お白石持行事が開催される。それをうけ、10月2日には内宮さん、10月5日には外宮さんの式年遷宮が執り行われ、いよいよ10月の中旬には20年に一度の大神嘗祭を迎える。そういった意味では、今伊勢は、20年に一度の最高潮を迎えるところ。この時期を捕まえて頂き、これからはぜひとも見える化を進めて頂きたい。以上お願い申し上げます。

(司会)

・続きまして当協議会会長の朴様から一言お願いいたします。

(朴会長)

・皆様こんにちは。温暖化といいますが、ここ数日のことを考えると、日本は熱帯になってきているのかと思うほど暑い。30年ほど前に日本に留学したときと比較すると全く違ってきていると感じる毎日です。こういう暑さだからこそ、私たちは低炭素社会ということに対して落ちついて考えてみようと思わされる。何とかしなければ地球は大変だと感じる。

・松下副市長からも話があったが、伊勢は今非常に暑い中、さらに熱いカタチで燃えている。こちらは日本の活気・元気が伊勢から始まると言わんばかりに、非常によい意味で燃えている。

・そんな中、観光も経済も、環境という要素を抜きにして語ることはできない。また、どうやって持続可能な社会にするのか。今回の遷宮、次の遷宮、20年後、1000年後という長期間を経ても、私たちが今色々討議してきたことが、すべて意味のあることだったんだと言えるように残してゆきたいと思う。

・昨年からは、協議会という形は開催しているが、前回から（この協議会の）やり方を少し変えた。詰めるべきテーマは多岐にわたり、少なくとも5つあった。1000万人という人が訪れる伊勢において、具体的にどのようなプランを実施するのか。特に観光・まちづくりという側面には少しでも寄与できれば。そのような視点から、ワーキングという形で話を進めさせて頂いた。

・伊勢市あるいは宇治山田の駅まで鉄道で来た方々、あるいは車でここまで来た方に、どのような形で伊勢を回ってもらうかが、課題としてあがった。乗り物一つとっても、伊勢は環境を考えた仕組みを採用している、という点を「見える化」したい。またEV車など、環境に配慮した乗り物をどういうふうに見せられるのかという部分では「ショーケース化」の方法が課題となっていた。

・いつ起きるかわからない南海トラフ沖巨大地震がもしも発生した際には、どのような形でEV車が、被災者の命や生活を救う現場で役立てられるかという点も考えてみました。

・4番目、バッテリーが無くなったときの補充はどこでできるのか、というインフラ整備についても私たちは考えた。

・最後には、人に見せるということはとても大事なので「おかげさま Action!」のシンボルマークやピクトグラムについても考えた。これらを見れば、伊勢市がやっている、EV車・電気自動車等を活用しての低炭素社会実現への取り組みがわかるような部分をどうやってつくるのかについて考えたわけです。

・このように、かなりの部分で（去年は）色々見えました。これからの協議会の運営の仕方としては、毎回「決めて」いきます。何が決まって、何が継続されなければならないのかをはっきり皆様と共有できるような運営をしていこうと思う。それに従い、また小さいことも大きなことも、決めなければいけない細かい部分に関しては、必要に応じて小ワーキンググループ・小部会を設定し、それに関係する専門的な人を呼びながら、協議会のメンバーや地元の方々がいっしょになって話し合っていきたい。その結果を協議会にもってきて、ここで決める。このような形で運営をして頂こうと思っている。そのためには、みなさんに主役として気持ちを改め、積極的に取り組んで頂きたい。毎回において一歩でも十歩でも前進するようなみなさんの協力をぜひともお願いしたい。みなさんの協力なしでは、この協議会も机上の議論に過ぎないものになってしまう。これは実践的なもの

のであるため、プランに沿って実行し、結果を出すというような連関が起きていかなければいけない。名前は協議会ではあるが、話し合うレベルは限りなく具体的に近いものであるようにして欲しい。

- ・私、会長としてはこのように決意を再度述べさせてもらうことで、協議会に参加すればよいということではなく、少しでも貢献できるもの、アイデアをもってきて頂くことにつながればと思っている。どうかよろしく願いいたします。

(司会)

ここから、議事次第に沿って進行しますが、参加者の紹介以降については議事進行を朴会長にお願いしたいと思います。

また、発言の際は氏名と所属をつけ加えていただきたい。

2. 参画者などの紹介

(朴)

では、事項書に基づいて議事を進めさせて頂きたい。

紹介はどうしたらよいか。

(事務局)

- ・事務局から簡単に紹介したい。時間の限りがあるため、名前を（座席図席次に従って）読み上げさせてもらいます。

- ・紹介（資料1）本日参加の参画者を、事務局より座席順に紹介（資料1）、事務局紹介。

- ・トヨタメディアサービス・NTN・JFEエンジニアリングの新規参画。伊勢二見民宿組合の退会。

3. 今年度の具体的な取組とそのスケジュールについて（その1）

（1）一人乗りの電気自動車の協議会での導入について

（事務局による、資料2～4説明）

- ・昨年の協議会の中で決定したコムス4台の購入について、現在の進捗状況と予定、予算案、運営案などを説明。

- ・現在国庫補助申請中。早ければ9月には導入の見込み。

- ・予算案提案。購入機種は「B・COM デリバリー」が候補となっている。

(朴会長)

- ・ありがとうございました。

- ・みなさんからご意見を伺う前に、寄付金の内訳について確認したい。前回までの合意形成として、伊勢市レジ袋協議会から300万という話だった。（さらに）三重県環境保全事業団から220万という寄付金があり520万となるのか。

(事務局)

伊勢市レジ袋協議会から320万円、三重県環境保全事業団から200万円という現在の見込みになっている。

(朴会長)

ありがとうございました。伊勢市レジ袋協議会（からの寄付金）というのは、市民のみなさんが環境に協力したかたちとしての寄付金。それに加えて三重県環境保全事業団から200万。ほんとうにありがとうございました。

みなさんいかがでしょうか。

これはだいぶ以前から検討してきた内容だと思う。4台の手続きをすでにはじめているが、早ければ9月か10月ということですね。よろしく願いいたします。

認めて頂きありがとうございます。特に反対がなければ認めるということにしますが（それについては）異議ありませんか？よろしいようですので、そのようにいたします。

(2) 5つの取組項目とその進め方について

(事務局から説明。参照資料：「おかげさま Action!～低炭素社会に向けた行動計画～」)

- ・昨年度の取り組み状況の確認

(事務局)

- ・5つの取組項目の課題について詳細説明、提案。

①具体的観光プランの作成

- ・4台の購入を予定している一人乗りEVの活用・運用、見せ方について例示。
- ・コムスの仕様等について説明（資料2参照および動画の紹介）
- ・貸し出し仕様書・貸出仕様案を提案（資料4参照）
- ・自賠責、任意は協議会の予算の中で負担の方向性。
- ・ナンバー登録については任意団体である協議会での登録は不可。
- ・長期間使用されるところでナンバー登録をお願いしたい。

(朴会長)

・論点整理が必要かと思う。コムスという一人乗りの超小型モビリティ4台を買うことになった。4台に対する運用の仕方ということが決まらないと、買ったものの運用ができない、ということと思う。

・当協議会では、レジ袋収益金、つまりみなさんの努力から得られた収益金320万円と三重県環境保全事業団からの200万とで4台で購入し、そのお金で運用までできるということだったが、ここでは車両の貸出仕様書案が提出されている。私たちは当初、式年遷宮終了程度までの当面の間は、誰かの貸し出しということではなく、伊勢市駅前、内宮・外宮など、色々なところでショーケース化しながら乗りたい方に乗ってみてもらうということだったはず。この車両の運用(貸出)は、市役所が主なのか、誰なのか。レジ袋協議会も当協議会も、最後まで（車両の運用について）責任をもってできるわけではないということだった。そのため、市役所なり何なりが所有し、それを伊勢市の観光協会などにしばらく預け、そこで伊勢を訪ねた方々にショーケース化を兼ねた形で乗っ

てもらおうということを、式年遷宮が終わるまではとにかくやるんだ、という合意形成で動いたと認識をしている。この貸出仕様は、その一環なのか。

(事務局)

- ・協議会は任意団体であり法人格をもっていないため、協議会の名称で車両を登録することはできない。
- ・そこで、1ヶ月、3ヶ月といった数ヶ月単位で、協議会の参画者の方に活用して頂くということであれば、その方の名義で登録をし、次の方に（使用者が）変わるのであれば、そのたびに名義を変えさせて頂くということにしたい。
- ・原付については市役所の登録なので、比較的容易に登録変更ができる。

(朴会長)

- ・みんなのお金（レジ袋収益金）で買ったものを、いくら数ヶ月単位とはいえ、交代交代で貸与し、貸与した人が独り占めのような形で使っていくという話はなかった。
- ・式年遷宮期間は、伊勢市が低炭素社会のため講じている手段であっても、（ただ購入して使用するだけでなく）その取り組みを見せることによって「車ではなく自転車や歩きにしようか」というような促進効果を生むように、しばらくショーケース的に実行する。また式年遷宮が終了したら、（低炭素社会化を）軌道に乗せて一般化してやっていくために、色々な方々が責任をもって登録などをし、運用するという事だった。
- ・（この提案を見ると）4台を購入し、もし私が登録したら、私が勝手に3ヶ月使えるような話に見えるが、そうではなかったと認識している。この辺からはじめましょうか。
- ・伊勢市の市民の協力・活動によって購入された4台が、それがレジ袋収益金によるものであるかどうか明らかにされないこのようなかたちで、市から離れたところで使われてしまったら、低炭素社会の見える化にも寄与できないのではないかと。

(事務局)

- ・見せる取り組みとして、まずは協議会の方々に使って走ってもらうのが良いと思う。ただし、使い方については提案をもらい、協議会の中で決めていくのがいいのではないかと考える。

(朴会長)

- ・これでは、何ヶ月間か、貸与される人が使うような仕様ではないのか。
- ・市の観光協会なり何なりが一定期間（一般貸与の）運営をし、その後順番で色々な（協議会の）方々が使用するという事なら、これは（現段階ではなく）次の段階の仕様書ではないのか。

(事務局)

- ・どのように使っても構わないと思っている。一貸出先で4台使っていくということでも良いと思っている。どんな使い方ができるかを含めてここで協議頂ければと…。

(朴会長)

- ・資料4は保留にしておき、10月に納車予定となっているコムス4台を、伊勢市挙げてのものと

して、みなさんはどのように活かしていきたいと思っているのか、意見を訊いた方が良いと思いませんか？

(事務局)

・補足をします。協議会は任意団体なので、コムスについては（協議会ではない）どこかが所有者登録をしなければいけない。まずその所有者を誰にするかということについて調整をしたが、なかなか手を挙げてもらえるところがなかった。そういう経緯から、まず最初の使用者に所有してもらい、次々に所有を回していくという案の提出となった。まず所有してもらえるところがあれば、そこからお貸し頂ければ良いかと思う。

(朴会長)

・ちょっとまって下さい。レジ袋収益金に関与しているのは伊勢市の環境課。このお金はみんなのところから得られたお金であり、それで4台を買った。にもかかわらず、市の所有ではなく個人の所有とするつもりかなのか。

(事務局)

・その辺も調整をしたが、なかなか所有者が決まらなかったため、それが大前提となっている。

(朴会長)

・（コムスは）市の資産として車になるのではなかったか？
・レジ袋協議会は3、3、2事業者と一緒にやっており、事務局は市が担っている。だからさまざまな店舗が安心してレジ袋収益金を協議会に収納するのであり、私はその会長をやっているが、私や会員が（収益金を）与えられているわけではない。
・しかしながら、今回、伊勢市低炭素社会事業のために購入した4台に対して、所有を市ができないということであれば、大前提が崩れるのではないか。副市長、どうなっているのか。ここがうまくいかなかったらスタートはできない。

(伊勢市 松下副市長)

・豊田通商さんは運営が無理だということですね？そう聞いているが…。

(豊田通商株式会社 浅井氏)

・当初そのようなご相談を頂いた。最終的には、シェアリングをするのであれば、一年限定の運営ならこのぐらいの費用でできる、という提案をした。
・しかしその金額では難しいということだったので、このような状態になっていると理解している。

(伊勢市 松下副市長)

・市が所有することになると、公用車として使用するという条件が一番になる。
・そのうえで、私たちにはさまざまな環境関係のイベントなどもあり、そういう現場でいわゆるショーケース化ということはできる。
・市民の方々に対し、（そういう場面で）取り組みを見せることはできると思う。

- ・ここにあげている5つの取り組み、例えば、観光プランなどということになっていくと、市での対応は難しいと思う。
- ・会長の発言のように、遷宮が終わるまでの一定のところで（とりあえず市が）所有して、その後また具体的なことを考えるということであれば、その間なら可能なのではないか。事務局なにか（提案が）あったら（発言を）。

（伊勢市環境課）

- ・副市長が申し上げたとおり、市の公用車として使用させて頂くことが可能なら、市の職員は市内を巡行する機会が多い。（市民の方々に取り組みの形として）見て頂くことも可能。
- ・市のイベントに持ち出して市民の方に見て頂くことも可能。
- ・市の公用車として使わせてもらえるなら、1〜2台借りたいと考えていた。

（朴会長）

- ・ちょっとまって下さい。話がおかしい。
- ・（過去の）協議会の中でも、せっかくの市の取り組みであるなら、福祉のところでも使える。子どもたちの環境教育の材料としても使える、などというアイデアが出ていた。
- ・お金だけ貯めてあっても何にも生み出さない。有効に使ってはじめて低炭素社会に貢献する。その一つがたまたまコムスという超小型の車両という一般化できる形だった。
- ・それに対して市は、公用車として使えるものにならないと思っているのか。
- ・今回購入する4台の車の所有者は（私たちの意識としては）伊勢市なんです。それを大前提に考えている。
- ・レジ袋協議会でも、その使い道に関しては誰一人、3ヶ月なり1年なりの期間、（占有して）使いたいという意見はなかった。どちらかという、伊勢市全体に有効に使われるような共有資産になるということから話をすすめたもの。大前提がここで崩れてしまったら、今までの話はどうなってしまうのでしょうか？

（伊勢市産業観光部）

- ・早速使用の申請をしようと思い、出番が来たら発言しようと思っていた。昨年の豊田通商さんの話もふまえ、数十台という電気自動車が来た場合の対応を何種類か考えていた。20台、30台となるとメーカーさんも厳しい、どこが（その資金を）だすのかという話にもなっていた。
- ・一方そこへ、4台の車がレジ袋協議会の資金によって購入して頂けるということになったので、駅前に停められるように電気設備も手荷物預かり所に整備をし、対応できるようにし、7月末に完成するようにすすめている。
- ・今申請を出させてもらい、市と観光協会が使わせてもらえるのであれば、遷宮の期間に駅前で展示も含めて、観光協会と市で運営もしたいと考えている。

（朴会長）

- ・今の話はごもつともだが、これでは環境課にとっては問題ではないですか？レジ袋収益金をコムス購入に充てるが、買うだけではだめ。生んだらどうやって育てるのか。これを考えるのは観光課。しかし（今の流れでは環境課が）、そのところの責任をもたないように聞こえる。

(伊勢市環境課)

- ・先ほど須崎参事が発言したように、たとえば公用車で使う方法もあるし、駅前の手荷物預かり所の方も、市の内部で充電設備や駐車スペースの確保をさせてもらっている。
- ・市の所有として使うということになると公用車という扱いになるので、公用車として使っていきたいという方向性をもっている。
- ・先ほど参事が発言したように、観光協会と協力し、手荷物預かり所のところで展示をしてみせる。もし良ければ観光協会で使うという方法がとれば、そういう使い方もあるかと。

(朴会長)

- ・それは、庁内で調整して下さい。しかも、環境課がリーダーシップをとらないからこんなことになるのではないかと。(リーダーシップを)とってください。
- ・また、市民からも色々な良いアイデアが出ていた。観光だけでなく福祉施設などが必要だということであっても、それほど(維持費・経費)はかかるものではないと聞いている。レジ袋収益金は毎年少なからず出てくるので、当面の保険代などが必要なのであれば、その補助もできる。そういう形でくるくると回していけばよいから、それはそれで話是可以。
- ・しかしスタートラインの低炭素社会(をどう実現化していくか)という部分で、まだ観光課がどうなのか、ショーケースがどうなのかと話し合っている時点では、環境課が庁内の調整によって、1年間は責任をもって面倒を見るべきではないか。観光協会などが色々な場所で自転車を貸し出しているように、コムスもそれほど大きな車ではないので、式年遷宮が終わったとしても、使える方はどうぞ使って下さいという形で使うことも可能ですよね。
- ・どういうやり方で庁内で運営することが一番いいのか、そのプランを(市が)見せないといけない。いきなり、くるくると何ヶ月ごとに変わる所有者に責任をもってもらえるように決めてくれといっても、我々はどう決めればよいかわからない。

(トヨタ自動車株式会社 河合氏)

- ・グループ会社の車を買って頂けるという、有り難い話ではある。
- ・が、私も昨年出させて頂いており、まさに観光のワーキングの中の話として4台を買おうという話であったという認識をしている。資料4に関してはすごく首をかしげている。
- ・また違う話ではあるが、今回、国交省からも170何万のお金を、超小型モビリティの支援として使い道も含めて申請しているはずですね。そのお金をもらうにあたって、その時の申請は、内宮・外宮などの場所を決めて4箇所ぐらい使うから4台というような内容になっていたのではなかっただろうか。それを考えても、この貸出仕様、この使い方ちょっと違うのではないかという感じがします。

(朴会長)

- ・他の人の意見の聞きたいが、資料4はもう棄却ですよ。これは審議できません。他の方はどう思いますか？

(東海日産自動車株式会社 藤原氏)

・コムス、超小型モビリティの導入が検討された背景を思い起こしてみた。伊勢市というのは小路や坂道が多いので、超小型モビリティが電気自動車として町の中を走るのは非常に便利。これが導入の後押しだったかと思う。確かに町を走ってみると、細い路、入り組んだ道が多い。超小型モビリティを観光にどうつかうべきか、という議論の中から一つの選択肢として出てきて申請まで至ったというように覚えている。

・どういう経緯になってこのように転がっているのかわからないが、国から援助を半分もらうことについては、援助のための理由をつけて購入されているはず。初期の目標に到達するようにしないと意味がない。入り組んだ細い路が多く、観光地も多い伊勢市にとって、小型のモビリティが便利な車と考えられ、採用になった経緯をふまえたうえで方向性をもっていって頂けると良いと思うが…。

(一般社団法人三重県タクシー協会 景山氏)

・先ほどの国への申請の関係だが、タクシー事業者が観光・環境に対して車を購入する場合、地域連携が必要。当協議会でプランが生まれ、外宮・内宮とかにタクシーを利用してお客様を運ぶ場合は、届け出事業者なので所有者には必ず運送会社、タクシー会社になる。その補助金については、5年間は有効な管理の下におかれます。そしてその使い方に関する報告書を提出するわけです。所有者ということになると、県や市がならないと、国から補助金が下りないのでは？

(事務局)

・国庫補助の手続きに関しては協議会から申請できる仕組みになっているため、協議会で申請を行っている。

・また補助の申請の中身に関しても、観光客による超小型モビリティの活用、シェアリング事業の検討、活用されている状況を多くの方に見て頂く、などをあげている。

・資料4については、先ほど申し上げた3つの中の「活用されている状況を多くの方に見て頂く」という部分を先に言ってしまったため説明としてまずかったのかもしれないが、まずはショーケース化という形で、活用されている姿を見て頂くというところに限った部分の資料になっている。

(朴会長)

・つまり、この協議会のメンバーとして、伊勢市は大変重要なメンバー。どういう形で有効活用していくのかを、まず見せて頂きたい。

・ここでこういう議論になる前に、軌道に乗るまで面倒見るんだと（という姿勢を見せるべき）。どのぐらいの期間になるのかはわからないが。

・その上で、長期間で見たときには、市から貸し出してはどうだろうか（という話になり）、その時はじめて「責任などが伴うよね」という議論になる。その時このような話が出るのなら一つの手順として、流れとして理解できる。しかし（現状は）、導入する時点ですでにたらい回しのように思える。私が過剰反応なのであれば正してもらいたいが。

・みなさんの考えるショーケースと私の考えるものは違うのだろうか。どこでも、誰でもいいから乗って回りさえすればそれがショーケースということなのではないでしょうか。そんな風に協議会で議論していたとは思えない。より多くの方々に、台数は少ないかもしれないが、伊勢市がいかに低炭素社会に向けて頑張っているのかということ、なにがなんでもこの際見せてやろうじゃないか、使わ

せて頂こうじゃないかという発想ではなかったか。それによって、一人でも車から歩きへ、あるいは自転車や小型のモビリティへと変わっていくのを起こすために、あらゆる方法の一つとして考えていると思っているので、このように集まっている。

・どこか訳のわからないところが手を挙げて、短期間使って好きなことやりなさいよ、で、終わり…という協議会ではないじゃないか。

・その時点ですでにこの仕様書案はあまりにもおかしい。ここに達するまで、みなさんの中にはそれに対する疑問がなかったのでしょうか。私は今初めて見ているが…。

(伊勢商工会議所 山川氏)

・市の所有であれば基本的には公用車としての目的でしか使用ができず、観光目的としてはなかなか自由に使えないというところがあると思う。観光目的ということであれば、観光協会か我々がもつべきと考えられるので、一旦宿題として持ち帰りたい。三者含めて協議させて頂きたい。

(朴会長)

・時間をあまりかけずに協議して頂きたい。

(伊勢市環境課)

いま、商工会議所さんからもお声かけありました。わかりました。伊勢市としましても、有効利用という観点で庁内で調整させて頂き、観光も含めて見せていける形で早急に決めていきたい。

(伊勢市松下副市長)

・行政というところは、なかなか動きにくいところがある。市の所有となると市の財産ということになるため、公用車など目的がある意味制限されてしまう。

・しかしこの「おかげさま Action!」で提案頂いている観光プランや駅周辺の商店街云々ということになると、これはなかなか市が所有したままでは行うのが難しいことなんです。何かあったときには、市がすべて損害を賠償しなければならない。これが今の状態。はっきり言って、行政で所有してしまうと動きが鈍いということはある。

・ただ、先ほど会長さんがおっしゃったように一定の期間市の方で所有させてもらい、市の中でショーケース化をはかっていくということであれば可能。商工会議所にも話を頂いたので、その辺で早急に話を詰めさせて頂きたい。

(朴会長)

・ありがとうございます。山川さん、来て頂いて良かった。もっと早くから来て頂きたかったです。ありがとうございます。

・それでは、観光協会と商工会議所、それから副市長がいらっしゃるの（調整をお願いします）。時間をかければいいというものではない。10月には（コムスが）来るので、それをみんなが納得いくような形で、どう説明責任を果たして頂くのか。今の状態では私だけではなく、みんなが首をかしげるような説明にしかならなかった。そのような意図がなかったのであれば、きちんと次回に説明をして欲しい。いずれにせよ4台が来るので、4台に対して有効活用できるような最大限の知恵を持って頂いてお願いをしたい。

- ・従って、この資料に関しては、今回は審議の対象から外します。よろしいですか？

(伊勢市産業観光部)

- ・環境課のみなさんがすごく消極的みたいな話になっているのでフォローしたい。
- ・今日の協議会でまず了解を頂いて、という前提で環境課と話をしていた。
- ・観光課は、環境課から、ぜひショーケース化をはかって欲しいということをプッシュされていた。駅前ぜひ数台を使いたいという趣旨の発言もするつもりでいた。空気がどよんとしてしまったが、本当にやるつもりで充電器も設置した。一旦市の所有という形になると、柔軟に対応できないということもあるので、手荷物預かり所を運営する観光協会さんと、そちらとタイアップした形で、使ってもらえるような方法を相談していきたい。
- ・皆様方のご理解を頂けるなら2台程度はそういう形で使いたいと…

(朴会長)

- ・残り2台は？

(伊勢市産業観光部)

- ・残り2台はまた、市の公用車ということもありましたので、私たちは使えないこともないのですが、置き場所の問題もありますので、それは市の方と相談しながら観光協会と一緒にやって行けたらと。今日良いご発言を頂きましたので、三者で相談したいと思います。

(朴会長)

- ・ありがとうございました。
- ・若干ヒートアップしましたが、その効果があったとは思いますが。ぜひとも良い形で、みんなが納得いくような形にして頂くということで、この部分、ショーケースも含めて4台のコムス所有・運用に関しては今日この場では決めることができませんが、また新たな提案をして頂く。
- ・はっきり言えるのは、みんなの共有資産として、どのように有効活用して運用していくのかという部分で、次に提案させて頂ければと思います。
- ・従って、今回は資料4に関わる部分に関しては、提案のままペンディングということにし、修正案などの色々を（つけ加えて）次回に越させて頂きたい。
- ・次に移りたいが、みなさんいかがでしょうか。

(伊勢市産業観光部)

- ・次の提案までに、もう次の展開で車がくるまでに進めたいことがある。2台だけでも使うことを了承頂けるか決めて頂きたい。観光協会か、あるいは市の所有の中でもどういう使い方ができるのかを…。

(朴会長)

- ・4台来る中で、2台は？、という風にしたくない。4台に関して納得いくような形での提案をして頂きたい。
- ・非常に有り難いのは、副市長はじめ、市、観光協会、商工会議所が一緒になって考えてくれると

のこと。

・せっかく4台をみんなの力で購入したのだから、それを有効活用できるような案を作ってきて頂きたい。協議会は待っている。いざとなったらまた来週開催しても良い。ぜひとも、2台といわず4台を含めてどうするかを考えて頂きたい。4台買ったものの2台は使い2台は適当、というようにはならないようお願いしたい。

・先ほどは環境課に対しめっちゃくちゃ言って申し訳なかったが、ぜひともリーダーシップをとって頂きたい。お願いします。

4. その他

NTN株式会社からのご提案

(朴会長)

- ・それでは、その次にうつらせて頂きます。
- ・4台の有効活用という中からルートについてなども見えてくると思うので、後日に回させて頂く。
- ・ここで、今日初めて参加された方で、NTNさんから提案があるということだったので時間を頂きたい。

(NTN株式会社 松尾氏)

- ・ありがとうございます。NTNの松尾でございます。
- ・それでは時間をいただき、コンピューターEVによる実証事業のご提案について説明させて頂きます。資料は8-1になります。
- ・フランスでも実証事業を進めておりますので、それについても触れつつ、およそ10分前後頂ければと思う。

(資料8説明)

- ・二人乗り電気自動車の提供について説明（車両の仕様、活用事例など）
- ・超小型モビリティの認定制度について説明
- ・提案内容説明：所有、車両の管理（保険）はNTN社／運行記録はGPSで取得／充電はパソコンのコードで可能なため、新規のインフラ整備が不要。／運転席1、後部子ども（～大人）1～2人搭乗可／市役所に1台、ほか4台計5台貸与提供予定／ナンバー登録済の状態です。10月に間に合うように納品の予定。／1年みんなで仲良く使って頂けるよう計画表をつくって欲しい。／オリジナルデザインのペインティングをぜひ行いたい。
- ・観光ルートの提出が必要なため、電気自動車観光周遊コース案が固まったら、ぜひそれを加味した認可提出にも取り組みたい。（既存のルート提案で並行して可能なところまでNTN社により認可申請手続をすすめたい）

(朴会長)

- ・一つ確認を。名前はなんでしたっけ？

(NTN株式会社 松尾氏)

- ・名前はございませんので、まさに「超小型モビリティの範疇のインホイールモータ搭載の世界で

初めてのEVコミューター」という風に分類して頂ければと。

(朴会長)

- ・それを伊勢市に貸して頂くためにはルートを決める必要があるのですか？

(NTN株式会社 松尾氏)

- ・資料15ページをご覧ください。なぜ我が社がこのような提案をするかのキーワードが記載されています。これは「おかげさまAction!」と全く同等でございます。地元三重県から地産地消の「共創」といわれている概念でぜひやっていきたい。鈴木会長も地元で実証をぜひ早くやりたいと言っている。スピードの時代なので今やらないと、と言っている。
- ・三つの貸出方法ですが(資料16～18ページ)、一つは市役所なので、市長様、副市长様など、これは貸与契約になる。
- ・②が皆様の方でおっしゃっている何ヶ月間体験しながら乗って頂く、フィードバックして頂く(という貸出方法)。
- ・先ほどコムスの観光ルートでの活用というものが出ていたが、3番目はまさに同じルートで(の使用と考えられる)。こちらは2人乗りなのだが、今つくっているものは運転席1名、後部は子ども2名(大人1人)まで座れる。
- ・市役所には1台。そのほかとして4台、合計5台はこれから国交省の許認可を受け、ナンバープレートをとって10月には間に合うような形で納めさせて頂きたい。

(朴会長)

- ・ありがとうございます。質問などがあるかと思いますが、それを頂いたうえでNTNさんの提案への了承を得たいと思う。

(皇學館大学 田浦氏)

- ・維持管理費用はどのくらいかかりますか？電気代だけですか？

(NTN株式会社 松尾氏)

- ・コストというか、1台を開発するのにすごい金額が投資されているので、カギをしっかりとかけて盗難されないようにして頂きたい。
- ・充電や運行記録に関しては、これはコストと言うよりもお互いの今後のEVづくりへのフィードバックということになると思う。
- ・保険については、静岡県磐田市の(貸与した)例では、複雑になるので、我が社で保険に加入した形で(納入し)、ハンドルを握る方(への保障)はそれでカバーされる。
- ・車両がダメージを受けた場合は、我が社の方でまかなわなければならないだろうという覚悟でいる。

(皇學館大学 田浦氏)

- ・コムスはバイクのような風通しの良い形だが、雨が降ると…？

(事務局)

- ・コムスは布のカバーをつけることができる。それをつけて購入する前提の見積もりになっている。

(皇學館大学 田浦氏)

- ・降り込まないのか。

(事務局)

- ・チャックでしめる形になっている。

(NTN株式会社 松尾氏)

- ・ビデオで見て頂いたものに若干修正が入り、今つくっている車は座席を前1人後(子ども)2人乗りにする一方、コストをできるだけ下げないといけないため、バーのようなドアにして雨の場合には布のようなもので覆うようにする、そういう簡易な形になると思う。
- ・サイズは(静岡県の納入車両に比べ)少し大きくなる。(スペックは13ページ参照)。先日国交省のガイドラインに内々でどういうサイズにするかに関するパブリックコメントを提出したが軽よりは小さいが原付のマイクロカーよりも大きい。大きい大人が2人十分横に並べるサイズとなっている。

(皇學館大学 田浦氏)

- ・それは(制限速度)60km/時以内?

(NTN株式会社 松尾氏)

- ・もちろん(制限速度)60km/時以内となります。モビリティスケールは30km/時と60km/時になっており、30km/時はものすごく規制緩和が進んでいる。が、静岡県での経験から考えると、やっぱり30km/時はゆっくりすぎて、かえって交通渋滞を起こすので良くない(ということがわかった)。ですから我が社は(今回)、当初からグレード通勤用として60km/時(制限車両の認可)を狙っている。
- ・フランスはもう60km/時規制(の車両は)どこでも(自由に)走れる。日本は1月に規制緩和されたといってもまだ厳しく、ルートを提出しなければ運輸局が(走行を)認めない。これをぜひ早く出したいと思っているので、ぜひよろしく願いいたします。

(朴会長)

- ・このほかに質問等ありませんか?

(トヨタ自動車株式会社 河合氏)

- ・超小型モビリティということで、今回コムスを使うという前提での申請を出しているが、次回の申請はNTNさんではなく、また協議会か何かになってくるということですよ?とすると、その二つを整理しないと、同じ地域で同じような車を使って行うため、国から説明を求められた場合に整理がいるような気がするのだが。これはNTNさんではなく伊勢市なのかもしれないが。

(NTN株式会社 松尾氏)

- ・実際の国土交通省への申請は2つある。1つはナンバープレート。これは運輸局の軽自動車協会がやること。これについては技術的な面の申請になるため、私どもとつくっているタジマモーターズが(申請を)行うことになる。
- ・運輸局の審査に関しては、それほど難しくないと考えている。が、運行のルートや計画をしっかりとてないといけない。まずは先ほどの資料16-18ページ程度の内容で出してみてもっと細かいものを出して欲しいということであれば(改めて)出していく。その運行計画は、県と市と協議会ということになると思う。同じものを静岡県の際にも出しており、同じ中部運輸局の窓口なので、スムーズにできるようにしたい。

(事務局)

- ・補足します。コムスの方は原付自転車4輪ということで、特に規制はなくそのまま走れる車両になる。これについては超小型モビリティの補助金があり、(国交省への「申請」というのは)この申請手続きである。
- ・一方NTNさんの方は、そのままお貸し頂くということなので、補助金申請の手続きは不要。
- ・ただし、資料8-2、右手の方の赤い囲みの中にあるように、軽自動車規格の中には認定制度というのが特別に設けられており、この認定を受けるとエリアを限った形で走行が許可される。松尾さんから説明頂いた「申請」というのは、その手続きについてである。

(NTN株式会社 松尾氏)

- ・超小型モビリティの認可制度においては、私どもの場合はルートの提出が必要になるが、コムスさんの場合は一人乗りのマイクロなので必要がない。従ってどこでも走ることができる。その申請は、県、市あるいは協議会の名前になる。
- ・技術的な申請はNTNで行う。

(朴会長)

- ・そのほかにありますか？
- ・それではみなさんの了承を得る前に確認をさせていただきます。
- ・NTNさんの、名前はありますが仮に「おかげさま自動車・EV車」などとしましょう。
- ・2人乗りの軽自動車みたいな扱いをするその車4台を貸して頂くと、貸す期間はどのくらいの期間ですか？

(NTN株式会社 松尾氏)

- ・これはみなさまとの協議によるものです。静岡県の場合は1年ぐらい。延長有りうべしということにしている。
- ・色々な考え方があがるが、その1年の中で協議会のみなさまが使う場合は、1ヶ月、3ヶ月など、市と県とでアンケート調査などをとりながら使ってもらい、計画表をつくって頂けると有り難い。

(朴会長)

- ・わかりました。それと、10月頃から(貸与開始)ということですね。

(NTN株式会社 松尾氏)

・これは、運輸局と軽自動車局の認定がとれれば(可能)ということ。とれなければずるずると(時期がずれて)いくということになる。その辺はありとあらゆる努力をしながら(認定を)とっていくというように考えている。10月をデッドラインとして目標をセットしたい。

(朴会長)

- ・ありがとうございました。それと、ルートも決めて許可も得るんですね。
- ・貸して頂く4台に私たちのデザインを貼っていいと？

(NTN株式会社 松尾氏)

・これは市の方々と議論して、今つくられているロゴをできるだけ早く(決めて欲しい)ですね。市の公用車(として貸与する1台)は、8月の末に貸与式を行いたいが、なにも(ペイントなどがないと)ちょっとさびしい。(動画で見たように)富士山のロゴなどはやっぱりめだった。色や全体のデザインなど、できるだけ早くおっしゃって頂ければと。

(朴会長)

- ・最終的に盗難防止保険などの保険等々は市で議論していくわけですか？

(事務局)

・任意保険や車両保険に入った状態でNTN様の方からお貸し頂くようになっている。まずは、車両をつくられるので制作に時間がかかる。そして認定の手続きに時間がかかるということで、それを何とか早くやっていきたいという話。まずは(公用車としての)1台を(先行して)制作して頂いている。そのほかに、4台。合計5台というご提案を頂いている。

(NTN株式会社 松尾氏)

・合計5台だが、そのうち1台は公用車としての貸与となる。ただしこれは市に貸与契約するものなので、話し合いによってそれを協議会の方が使うのも可。市の方で決めてもらえれば、私どもは貸与契約にそれを盛りこむだけ。「ただし協議会のメンバーが使いたい場合は、市の了解を得て貸与するものとする」というような一項を入れればよい。

(朴会長)

- ・ありがとうございました。
- ・すごい条件をつけて頂いて4台プラス1台という提案ということになるが、みなさまよろしいでしょうか？
- ・ありがとうございました。それでは、この件、NTN様よろしくお願ひいたします。

(NTN株式会社 松尾氏)

- ・よろしくお願ひいたします。

3. 今年度の具体的な取組とそのスケジュールについて（その2）

（2）5つの取組項目とその進め方について

（朴会長）

- ・それでは時間はかなりすぎているが、色々進めさせていただきます。
- ・5、6、7というようにまだ資料があるが、私たちが考えなければならないこととしては、重要などころから行きます。

⑤シンボルマーク・ピクトグラム等の作成

（朴会長）

シンボルマーク・ピクトグラムの作成に関わること。これは事務局の提案の中でもかなり大変な提案になる。最終的な授賞式までの日程も含め、広報などについても説明をお願いいたします。

（事務局）

シンボルマーク・ピクトグラムについて説明をさせていただきます。（資料7- 1、7- 2説明）

（朴会長）

- ・ありがとうございました。みなさんに了承を得る前に、一つ私から確認があります。
- ・「おかげさま Action!」のチラシの最後の賞「キッズ賞：各1点」の記述について。子どもの作品は最初から最優秀に選ばれませんという風にも読める。時には子どもの作品が最優秀になる可能性もある。ですから、キッズ賞ではなく特別賞などのようにし、大人になるか子どもになるかわからないというようにした方が良いのではないかと。
- ・（たとえば）シンボルマークの最優秀がキッズになっても、応募者の中から（さらにキッズ賞を選ぶということか）？。キッズ賞は子どもを奨励するために特別に設けたいということなのではないか？意味がわからない。

（事務局）

・キッズ賞は、子どもの取り組みを奨励するという意味で設けてはいる。シンボルマーク・ピクトグラムそれぞれの最優秀賞の対象から（子どもを）外しているわけではなくて、子どもたちもすべて対象で選んで、なおかつ、子どもに別途賞を設けているということ。

（朴会長）

- ・ですから、そこに「キッズ賞」という名称をつけないとだめなのか、「特別賞」または「奨励賞」というようにした方がよいのではないかとということ。教育の現場から見ると違和感がある。
- ・みなさんにおうかがいしなければいけないが、そこがどうかな、ということがありました。ほかの方々、この日程、選考の方法も含めて質問等々ありますか？

（NTN株式会社 松尾氏）

・私どものコンピューターを10月に間に合わせる。車体に決まったデザインを印刷したい。その期間が欲しいため、タジマモーターズと、いつまでにデザインをもらえれば10月に間に合わせられ

るのかを詰めます。できるだけ早くいただければと思う。

- ・私どものコンピューターは三重県の地元の技術を入れて、地産地消にしたかった。三重県の産業商工にも頼んでいたが、なかなか間に合わなかった。せめてデザインだけはどう思う。コムスは難しいかもしれないが、私どものコンピューターは全くデザインがフリー。子どもたちがデザインしたペイントを施した飛行機がガンガン飛んでいるように、描くこともできるので、こちらも伊勢市らしいデザインで決めて頂ければいい。それについても10月に間に合わせてプリントする期間を頂きたい。また、(車の) 俗称を決めて頂ければ、それも入れられる。フランスでは「ツールイン」としたいという希望だったので、そのようにした。

(朴会長)

- ・9月真ん中あたりには最優秀賞は決まるが、パテントの確認がどの程度かかるのかがいまちょっとわからないため、現状では9月下旬というスケジュールになっている。

(事務局)

- ・パテントの確認を10日間ほど見ている。その後に、デザインの再修正、しあげというのをやる。
- ・パテントを確認した時点で絵というのはだいたい確定する。

(朴会長)

- ・というと、13日までには(決定から)10日ぐらいある、ということか。

(事務局)

- ・そのあたりは実際どのレベルでできるか、という(課題が)ありますので、NTNさんと具体的に相談させて頂ければと思う。

(NTN株式会社 松尾氏)

- ・それではまた太田さんと相談してまた会長にご報告させて頂く。

(朴会長)

- ・よろしくお願ひいたします。
- ・では、日程と選考部分はこれでよろしいでしょうか？

(日産自動車株式会社 永澤氏)

- ・昨年の議論がわかっていないのでとんちんかんなことを言うかもしれないが、ピクトグラムをつかって充電器設置場所を表示するということだが、道路標識のような形で表示していくとかどういう使われ方をするのか？
- ・現在はEVクイックチャージなど、色々な表示があると他県から来た人が混乱しないか？という懸念がある。

(事務局)

- ・昨年の話し合いでは、ほかでも使って頂けるようなものをつくっていくという結論に至ったと思

います。充電器につけたり、パンフレットに表示したりなど、いろんな使い方があると思う。

(日産自動車株式会社 永澤氏)

・全国的に(マークの)統一が進んでいる。それとあまりに変わってくると、ほかから来た人がEVのチャージがあるかどうか分かりづらくなる。もうこれでやるということに決まっているのであれば、それを意識したものにする必要があるのでは。

(朴会長)

・選考とかの部分において、協議会もそれをふまえて、いい形で選んで頂く。若干の修正なども必要かということもおっしゃられたので、そのことに関しては、色々な要件をふまえて選んでいただければと思います。そのくらいで、お願いします。

(株式会社JTB中部 後藤氏)

・デザインのワーキングにも参加させて頂いており、今議論が、車ありきのデザイン、あるいは設備ありきのマーク選びというようになっている。もともとシンボルマークというのは取り組み全体を象徴するもの。私どもは旅行事業者であるが、旅行のパンフレットにすり込んだり、それぞれのホームページに展開することもある。やはり伊勢全体が「これで取り組むんだ」という(意気込みを)象徴するというのが議論の発端のはず。

・今日の議論の中でも車のメーカー様の協力とかいろいろあったんですが、もう少し広い視点でマークの位置づけを捉えて頂ければと思う。

・ただ、(その作業中に)何か当たりさわがある…例えばこのデザインを車につけると運行上良くない、などの問題が出てくるようであれば専門家からご助言を頂ければいいと思う。基本的な考え方は去年はそのようだったと認識している。

(朴会長)

・ちょっと会長の立場からひといいわせて頂く。このタイトル、協議会のテーマをよく読んで下さい。「電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会」。そのタイトルにふさわしいということ考えると、やっぱり伊勢市全体の観光云々ということも大事かもしれないが、電気自動車等ということは避けては通れない。そこをはっきりわかって頂かないと。

・ワーキングはワーキング。協議会の意向をくんだ形のワーキングでないと。ワーキングありきの協議会ではないので。そこは見失わないようお願いしたい。どんな形でのワーキングを何百回やったとしても、この協議会のテーマがどうなっているのかを見失わないようにして頂きたい。どうでしょうか。

(株式会社JTB中部 後藤氏)

・昨年度会長がおっしゃっていたように、「我々がめざすもの」は、電気自動車ありきではなくてまさに地域の皆様です。低炭素社会を実現することが我々の主目的であって、大きな手段が電気自動車ですと申し上げているだけで、観光事業者としての話ではない。

・電気自動車についてはおろそかにしているつもりはなく、前回も、そういうことで車のためのマークですか?そこはちょっと違いますよね、という立ち位置の確認だった。

・「前回のワーキング」と先ほど申し上げたが、私も協議会に出席をさせて頂いておりましたので、その協議会の中では、まさに会長がおっしゃるような大きな視点で、もう少し考えましょうよ(と申し上げたい)。おはらい町の会長さんから言って頂いたように、市民の意見は大切ですよという視点があった。まさにその活動のシンボルとなるマークを考えましょうよ、というのが前回の会長のお言葉だったと思う。

(朴会長)

・理念論を申し上げるつもりはない。私たち協議会の責任と権限である。伊勢市全体のシンボルはできますか？できませんよね。私たちはこのテーマに沿ったシンボルマークを(つくるべきである)。
・車ありきの話ではないが、私たちがやっているのは炭素を一番出しているところを縮減しなければ、温暖化対策にならない。伊勢市の場合、それは運輸でした。58%減らさないと、私たちの目的は到達できません。究極的に電気自動車はその救世主かということ、それはわからない。でも、そういったものを含めた形でのものを考えようといっていた。「おかげさま action!」の中での根底はなんだったのかを忘れないで頂きたい。EV車、電気自動車等は重要なポイント。そのうえで伊勢らしさのあるデザインをつくらなければいけない。場合によっては、ピクトグラムは簡単かもしれない。(一方)シンボルマークについては、全体が車というわけではないが、そこを離れてのものをもってくるとそぐわない。
・冒頭に言ったように、ワーキングはあくまでも知恵を貸してくださいということ。ワーキングでどんなことを決めたのかわかりませんが、決める権限はなかったと思う。決めるのは、この協議会。ワーキングで行われたことをふまえて、どういう方向で行くのかを(協議会で)決める。そこをわかって欲しい。
・また、JTBさんだけの理論で進まないことをわかって頂きたい。だから広くいろんな方々に呼びかけをする。シンボルマーク選考に関しても、必ずワーキングの人だけが入るということではない専門家も、地域でやっている人も、ワーキングでやっている人みんな一緒になって選びましょうということ。判っていただけましたか。

(株式会社JTB中部 後藤氏)

・私の発言の仕方が誤解を招いているようなら申し訳ありません。ワーキングにこだわっているのでも、先生の理念を忘れてるわけでもない。申し上げていることのベクトルは同じ。私の言葉が足りないと思うと感じている。誠に申し訳ございませんでした。ただ、大きいものをめざして皆様と一緒にやりたいと考えているし、けっしてJTB中部だけのことを考えているわけではないので、誤解なきようお願いしたい。発言等、不適切な部分があったことにつきましてお詫びを申し上げます。

(朴会長)

・そこまでおっしゃらなくてもいいと思っています。ここでは、私たちが限られた時間でやるために、必要に応じてワーキングなどを開き、興味・関心・知識のある方の知識と知恵をお借りする。それを無視するという事ではない。ワーキングでこうなったからこうあるべきだ、というようにはならないということをご理解いただきたい。

④充電施設等設置・運用指針の作成

(朴会長)

・次に行かせて頂きます。充電施設等設置・運用指針の作成に関わるものが、資料6になっていたと思う。それについての説明をお願いします。

(事務局)

・多種多様な充電システム、課金システムについての説明。(資料6)

(朴会長)

・これは今日、どういうシステムになるかということを決めることはできないですね。こういう考えがあるということで、次回も継続的にやっていきたい。

(伊勢市環境課)

・事務局の太田さんからいろんな説明がありましたが、色々な課金システムがあり、24時間365日無人にするのかなどということもある。これから充電器整備が進む中で、できるだけ早く伊勢市の指針を作っていきたいと思っている。たくさんの参画者の方に出てきて頂いているが、専門的な知識や情報を頂く中で、できるだけ早くつくりたいと考えている。できれば7月の末、8月ぐらいには集まりを頂いてつくってきたい。

・できたら小グループまたは作業部会を作ってもらい、できるだけ月2〜3回の回数になると思うが、次回の協議会までにその方針案を協議会に提案したいと考えている。その辺をご協議頂きたい。

(朴会長)

・一応この資料6は、考え方の一つとして提案があったと。それに対しては、事務局で専門的な知識のある方や、知識を有するメンバーに呼びかけをして、小ワーキンググループまたは作業部会のような形を組み、何回かの会議をもちながら作業部会をしていただきたい。そして、これから出るスケジュールに合わせ、報告的なことをしていただく。このようなことを認めて頂きたいということですね？

・いかがでしょうか。(反対意見なしにつき) よろしく願いいたします。

・メンバーなどは事務局でお考えください。

(東海日産自動車株式会社 藤原氏)

・せっかくの機会なので、三重県さんにおうかがいしたいのですが、課金のシステムがどのとういう前に、そもそも充電器を設置していかなければいけない。

・充電器の設置は、今年度国から1005億円の予算が出て、県がビジョンをつくり、そのビジョンに基づいて充電器を設置していくというようになっていた。

・協議会の中でも議論し、また、このような伊勢市の議論を活用してのビジョンを早急に策定し、国に提出してその1005億円を上手に活用していこうというのが、協議会での合議事項だったと記憶しているのですが、いまだに県のビジョンが国に提出されていないかと思う。

・この辺の進捗状況を教えて頂きたい。

(三重県環境生活部)

- ・ビジョンの作成につきましては、現在作成中です。
- ・おっしゃるとおり、他の府県より遅れているのが実情。
- ・作業としては4月から進めているが、県内の市町の意見を聞きながら進めている。しかし、市町ごとに温度差があり、温度差を抱えたまま形にすることは難しい。色々情報収集をしながら検討を進めており、はっきりとした期日は言えないが、まもなく提出することができる見込みである。

(朴会長)

- ・今の説明は理解ができない。市町の合意形成は必須なのか？

(三重県環境生活部)

- ・各都道府県でつくりつつあり、三重県でもビジョンを作成している。ビジョンに合致したところで、一定の条件を満たせば、1005億の予算の中で3分の2の補助をもらって、充電器の設備を設置することができる。
- ・三重県では、そのビジョンをつくるにあたって、各29市町さんの意見を聞いている。
- ・意見を聞く作業はもう終わっている。
- ・経済産業省の方からは、県内の市町の意見を聞けという指示は出ていないが、私どもの方では意見を聞いて作業を進めているということ。

(朴会長)

- ・わからないのは、三重県版の充電施設を申請することなんですか？

(三重県環境生活部)

- ・充電器設置補助は従来からありまして、設置する際に、本来の費用の2分の1の補助は、従来からもあり、現在もある。
- ・先ほどお話し頂きました「この県のビジョンがないと…」というのは、都道府県のビジョンという中に位置づけられたものは、本体、工事費と合わせた費用の3分の2という高率の補助をもらえという仕組みが、平成24年度から補正予算で組み込まれたというものです。ただしそれは、都道府県がビジョンをつくって出さないともらえないということなんです。

(朴会長)

- ・ではそれは、29の市町が合意形成して普遍的なものをつくらないといけないのでしょうか？

(三重県環境生活部)

- ・合意形成の必要はないと思っている。

(朴会長)

- ・ではなぜそれほど時間がかかるのですか？

(東海日産自動車株式会社 藤原氏)

- ・ビジョンをつくるステップは各県ごとに色々なステップを踏まれています。基本的には、「設置したい」と手が上がったときに、3分の2の補助が得られる形になっています。今たぶん、(47都道府県中) 26か27ぐらいの都道府県がビジョンを提出している状況だと思う。たとえば、交通量に応じて県道や国道の何カ所かにつけるなど、(他府県には) かなりおおざっぱにやっているとところが多いというのが実情。
- ・今回の補正予算については、来年の2月が申請の締切。作業を進めているということであったが、なるべく早くビジョンを提出されて、使いたいところに補助が得られるようにすることが必要かと思う。

(朴会長)

- ・三重県が最初に提出する県となりそうなら慎重にしなければいけないが、既に26-27も提出しているという状況ならば、三重県にとってなにが一番ふさわしいのかということのアバウトなもの(早くだすべき)。29の市町(のヒアリング)を全部やるのか、特色あるところだけやるのかわからないが、そういうところのビジョンをつくるのではないのでしょうか？なににそれほど時間がかかるのか、わからない。

(三重県環境生活部)

- ・いままさに先生がおっしゃった考え方で作業をしているところです。

(朴会長)

- ・それができていないとなると、課金システムなどの一連はどういう位置づけで考えたらよいか？

(事務局)

- ・伊勢独自の指針というのはまた別のものです。
- ・ビジョンというのをつくってそれにのっかっていけば補助がでるというもので、今現在ビジョンを作成して、まもなく提出するという話です

(朴会長)

- ・伊勢がいち早く協議会を立ちあげて活動しているがために、うけられるはずの国の補助が合わない、申請できないという形になってしまわないですね？

(三重県環境生活部)

- ・整備が進んで充電器が今後普及してくるというのに、ここでの課金方法の検討や指針が決まっていなかったら、遅い。できるだけ早くこの指針というのを決めていきたい。

(朴会長)

- ・困らせたくはないが、どういうことなのか…？

(伊勢市松下副市長)

- ・実は私たちも検討しているということで、いまは協議会に出てきている。
- ・しかし、ビジョンがあったら3分の2の補助が受けられるのに、今の状態では2分の1しか補助されない。これはやっぱりちょっとおかしいのでは？
- ・もちろん課金の方法は早く決めてもらわないと、こちらでも対応ができなくなる。
- ・ビジョンがあれば3分の2の補助金をもらえたのに、(検討を優先して)早くやってしまったがために2分の1しかもらえない。こんなバカなことはない。

(三重県環境生活部)

- ・「早く」というのは、指針を作る作業を早くということ。ビジョンは当然早くつくるようにやっている。間に合うように。

(伊勢市松下副市長)

- ・申し訳ないが、うちはもう間に合わない。

(朴会長)

- ・ちょっとすみません。会長の私自身が理解できていなくて申し訳ない。うまくいけば(補助金立が)3分の2になる。で、ふつうだったら2分の1?これはどういうことなのか?

(伊勢市環境課)

- ・どこまで言って良いのか解らないが、伊勢市は一応協議会の方で(充電器の設置場所として)どこがふさわしいかということを考え、すでに地図に落とさせて頂いている。これは早い段階で検証もさせてもらっている。そのうえ、事業者さんの聞き取り調査もしてもらい申請している。

(伊勢市松下副市長)

- ・それではなく、うちで(つくる充電器設備に関して)は、もうまにあわんやろ?

(伊勢市環境課)

- ・庁舎ですよ?これ(に関する補助)は間に合わせて頂くものとして、進めて頂いていると思っていたが…。
- ・伊勢市からの提出は5月ぐらいに計画を出させてもらっている。

(東海日産自動車株式会社 藤原氏)

- ・副市長がおっしゃるとおり、今はまだ設置でとめていると思う。
- ・設置をするとき、県のビジョン…ここにつくるぞ、という計画…にのっとっていけば、3分の2の補助が国から下りる。
- ・伊勢市は先行して去年半年間、プロジェクトの中でつくってきたという実績があるので、それをベースにして県全体にひろげ、さっさと出していきたいと思いますということだったと思う。それができていないということだと思う。
- ・伊勢市のプランはできているが三重県のプランができていないので国にビジョンが提出できてい

ない。ビジョンが提出できていないと、伊勢市で設置しようとしている急速充電器に関しては、3分の2を国からまかなわれるはずのものが、ストップしているという状況。

(三重県環境生活部)

・伊勢市の急速充電器につきましては（申請が）工事着工の時点でいいということだった。それはいつぐらいですか？それに間に合うように、うちの方で努力します。ご迷惑をかけないよう、なるべく早く作成するつもりでおります。

(朴会長)

・なるべく早くというのはわかります。努力は努力でいい。「いつまで」というようなリミットはないんですか？「国にはいつまでに提出」というような締切はないのですか？

(三重県環境生活部)

- ・特に期限はないがなるべく早くということで。
- ・期限については、この場ではいいにくいと思うが。

(朴会長)

- ・何か事情があるのですか？

(三重県環境生活部)

- ・特段事情があるわけではありませんので、伊勢市さんの充電器の庁舎への設置については間に合わせますし、他のところもご迷惑かけないようになるべく早く行いたいと思います。
- ・伊勢市さんとは調整させていただきます。

(朴会長)

- ・方向性がわからなく、申し訳ありません。
- ・とにかく早くやって下さい。（補助金率は）2分の1よりも3分の2の方がいいに決まってる。県は県のスタンスがあるかもしれないが、県がスタンスを守ることによって伊勢市が不利益をこうむるようなことになるのは変な話なので、互いにうまくいくように、申請手続きを早くして頂き、もらえるものはもらうということをお願いいたします。
- ・充電に関しては継続的にやっていく。ワーキングという言葉は使いたくないが、作業部会でやっていくということになる。
- ・ぜひともお願いしたいのは、作業部会に関する反省が多いんです。せっかくいいことをたくさんやっているのに、共有できていないから活用できない。作業部会をできるだけ早くすすめ、なにがどうなっているかをきちんとフィードバックして頂きたい。私たちが共有した形で集まって議論したい。深いところで自分たちだけが合意して、ああだったこうだったと言っても、そこに所属してしていなかった人にはわからない。それを、事務局は風通し良くして頂きたい。
- ・課金システム、充電システムをどうするかは、県と市とに対応して頂き、せっかくあるものは活用するようによろしくお願いいたします。

③災害時の車両活用の仕組みづくり

・観光プランとそれをふまえて災害時どうするかについては、今すぐここで決めることではないが、資料等の説明はどうしますか？

(伊勢市環境課)

・災害の関係ですが、おはらい町会議の会長さんも来て頂いておりましたが、昨年度はおはらい町会議さんが中心になって頂いて、災害時にEV等を活用した対応ということで検討した。さらにいま、もう少しひろげた形でまちづくり協議会という協議会が立ちあげられており、範囲を拡げておはらい町会議の中でEVを使っている人を使った、災害時の仕組み作りができないかと。行政もそこにいらせて頂いて、すすめていけないかと思っている。

・そういう小単位で仕組み作りが先駆的にできたら、伊勢市全体にひろげていきたいと思っています。

(朴会長)

- ・これも継続して考えて頂くということでよろしかったですか？
- ・これは作業部会とかでやっていくのでしょうか？

(伊勢市環境課)

・これは行政が主になって地域に入らせて頂き、仕組み作りをやっていくという風に考えています。

●その他説明事項

(朴会長)

・時間がかかりすぎて申し訳ありません。(議題は)あと一つだけです。スケジュールの部分が残っておりますし、あと必要に応じて説明する事項がありましたらお願いいたします。

(事務局)

- ・観光プランとショーケース化のところ、少しだけ説明をしてよろしいでしょうか。

(朴会長)

- ・はいどうぞ。

(事務局)

- ・観光プラン説明(資料5)

(朴会長)

・加えて、先ほどNTNさんのところでルートを決めないといけないという話が出ましたが、併せたものになるのでしょうか？

(事務局)

・認定の手続きをとるための限定されたルートということだったのですが、実際の手続きとしては、伊勢市内全域を認定エリアに入れた形で申請していけたらと考えております。

(NTN株式会社 松尾氏)

・また来週運輸局に参りますが、これを案として提示して、「たとえば…」ということで、こういうルートとしてやりたいという形で、とりあえずは意見を聞いてきます。

(朴会長)

・いずれにしても今この場で決めるということではなさそうです。

(事務局)

・その方向でよろしければ、再度作業部会などで話し合わせていただければと思います。

(朴会長)

- ・そのように議論して下さい。
- ・特に環境のところにも関係が深いと思いますので、ぜひともご協力よろしくお願ひいたします。
- ・ほかにありましたっけ？

(事務局)

・ショーケース化の方は？

(伊勢市商工労政課)

- ・商工労政課の中村昌弘と申します。お時間もお時間なので簡単に。
- ・今商工労政課の方で計画していることについて報告。県立明野高等学校という学校が伊勢市にあります。技術科、食品科学科、経済科、教養科、製パン技術科という5つの科がありまして、県下で唯一の総合学校です。いちごジャムなどもつくっており、人気があります。
- ・一方、私どもは商店街の活性化の方も担当しており、その集客と高校のPRについて、外宮参道発展会さんとコラボして何かできないかと考えている。
- ・商品のPRやマッサージや介護の実演などもしていただく一方で、その高校生に活動に使用する電力を伊勢市が買わせて頂くEVからひっぱって、それを観光客・地元の方へのPRにしようかと。
- ・高校生の方とやらせて頂くことで、若い方からお年寄りまでに見てもらえるのではないかと考えられる。

あくまでも高校生の授業を優先しないといけない。商店街のこともあるので、高校・商店街含めての打合せの段階。色々決めたらアナウンスをするので、ぜひ立ち寄って欲しい。

(事務局)

・今のことと絡めて、観光協会の方で「伊勢楽市」という催しをやっており、今度は11月の3日4日と聞いております。こちらの方でも何か取り組みができるのではないかとということで、帰られてしまいましたが、観光協会から報告を頂いています。

・先ほどの災害時の取り組みや、ショーケース化の取り組みは、随時進めていくということになるが、充電の指針や観光プランについては作業部会という形で進めていくので、事務局から個別にお声かけをさせて頂いたらよろしいでしょうか。

・シンボルマーク・ピクトグラムについては、選定委員という形で、今年のワーキングに入って頂いた地元の方々を中心にお声かけをさせて頂いてよろしいですか。

(朴会長)

・先ほど言及したと思いますが、私たちが素人としてわからない、既に登録されていたり商標化されているマークデザインと同一になってしまわないように、専門家の方も入れて頂けると助かります。

(事務局)

・専門家を2名入れる予定でおります。

(朴会長)

・今後のスケジュールについてありましたら。

(事務局)

・今後のスケジュール説明（資料9）。

(朴会長)

・ありがとうございました。これはもう承認もなにもないと思います。

・2ヶ月に1回ぐらいの頻度で会議をもつ。必要に応じて、予定外の開催も協力をお願いしたい。この時期にはこういうことを協議して欲しいという項目がありましたら、事務局に連絡して頂けると、どんどん内容の濃い協議会運営になる。

・これはみなさんにはかるわけではなく、こういう風にいきますよということで示させて頂く。

・事務局の方で地域交通の方の動きがありましたらお願いします。

(事務局)

・「おかげさま Action!」5～6ページに協議会での取り組みが載っています。短期＝3年間、中長期別＝10年間ということです。

・6ページの5-4にあります中長期的に取り組む内容ということで、5つめ、電気バスやハイブリッドバスの導入ということが記されています。

・このたび三重交通さんが前倒しによりまして、電気バスの導入に向けての取り組みをはじめられております。この取り組みをはじめられましたので、中長期の取り組み内容を、前倒しするということにご了解頂きたい。

(朴会長)

・非常に有り難いことですが、前倒しということは見込み有り、実現化に向かっているということですか？

(事務局)

- ・今年度からはじめて、実現に向けて今調整をされておるところでございます。

(朴会長)

- ・いいことを早く早く実現できるということでしたら、これ以上嬉しいことはない。引き続き、三重交通さんと連携をとってください。いろいろあろうかと思いますが、事務局よろしく願いいたします。
- ・いい報告がこの協議会でたくさん行われることを期待したいと思いますので、よろしく願いいたします。
- ・今日予定されていることは、これですべて消化いたしました。
- ・みなさんの方から案内やアナウンスはありますでしょうか？
- ・予定した時刻からほぼ1時間オーバーしてしてしまいました。私の議事進行の稚拙さがあったかと思いますが、みなさんの熱い思いというものが初めてこれだけの大がかりな参加型（会議）になりました。まちづくりの一つの新たな流れをつくるのは大変なこともある、ということで、大目に見ていただければと思います。
- ・おかげさまで、今日色々なことが決まりました。見えてきたものもありますし、課題としてやらなくてはいけないことも見つかりました。みなさんの力がなくてはこの協議会も進められませんので、引き続きよろしく願いいたします。
- ・今日は3時間のマラソン会議になりましたが、みなさんのご協力、本当に有難うございました。
- ・いまのところ、(次の会議は)9月頃かと思いますが、必要に応じて連絡が行く可能性がございます。どうかよろしく願いいたします。今日は本当にご協力ありがとうございました。

(司会)

- ・本日は長時間にわたりまして、熱心にご議論いただきありがとうございました。
- ・先ほど朴会長からお伝えしましたように、また9月頃に次の協議会の方、開催させていただく予定にしておりますので、また改めてご案内させていただきます。
- ・本日はどうも長時間にわたりまして、ありがとうございました。

(閉会)